

子どもの主体的な遊びにより人間力を育てるための調査研究事業報告書

今、求められる

〈人間力〉を育む「放課後子ども教室」 のあり方

— 子ども主体の遊びのすすめ —

2011年3月



協力

早稲田大学文学学術院増山均研究室

目 次

輝かしい未来のために	1
提言 子どもたちの＜人間力＞を豊かにする放課後の生活づくりにむけて	2
「放課後子ども教室」の役割とあり方	
6つのポイント - 子どもたちの＜人間力＞を育む指導者になるために -	3
子どもの人間力を育む放課後子ども教室の進め方 図	4
放課後の遊びについてのアンケート調査	5
調査の意義	7
調査の概要	10
子どもアンケート調査のまとめ	12
「放課後子ども教室」ヒアリング調査・基礎資料・情報誌「さあ、言おう」記事	25
【埼玉県】 高砂市立高砂小学校 高砂小学校放課後子ども教室ジャンプ！	28
【千葉県】 我孫子市立我孫子第一小学校 一小あびっ子クラブ	35
【東京都】 杉並区立杉並第一小学校 放課後子ども教室すぎっ子くらぶ	43
【神奈川県】 横浜市立瀬ヶ崎小学校 財団法人横浜市青少年育成協会瀬ヶ崎小学校放課後キッズクラブ	51
【山梨県】 甲府市立羽黒小学校 みんなの居場所「羽黒ほっとサロン」	58
アンケート調査用紙・データ集計結果表	67
ご協力いただいた方々・団体	

輝かしい未来のために

公益財団法人さわやか福祉財団

理事長 堀田 力



「問題に積極的に取り組もうとしない」

「自分の頭で考えず、指示を待つだけである」

「問題を見付けようとすらない」

先輩の社会人たちが、若い後輩についてなげく言葉である。

「自分たちはどうですか」と言い返してもことは始まらない。問題があれば、解決しなければならない。

その答えを文部科学省は用意している。「生きる力」である。

しかし、どうすれば子どもたちの生きる力が育つか。

生きているのが楽しくなければ生きる力は育たない。そして生きているのが楽しいのは、自分の能力が発揮され（自助）、それが仲間に役立って（共助）、仲間から認められた時であろう。

そのことをストレートに体験できるのは、仲間との遊びである。

だから、さわやか福祉財団では、早稲田大学の増山均研究室の全面的協力を得て、子ども主体の遊びの場を提供している5つの小学校の「放課後子ども教室」の成果を調査した。

この教室に参加していない子どもたちについても調べて、参加した子どもたちと比較してみたのが、この調査の特徴である。

異年齢の子どもも含めて、主体的に遊んでいる子どもたちの自助と共助の力（これを合わせて、人間力と呼ぶ。生きる力と同義である。）が伸びていることは、容易にうなずける調査結果である。

驚きの発見は、自由に遊ばせると、子どもたちは携帯型ゲーム、あるいはテレビゲームで一人遊び、又は共遊びをすることである。この遊び方では、共助の力は育たない。

私たちは、子どもたちが、群れて共遊びをする場をつくり、そこへ子どもたちを導かなければならない。

さしずめ、子どもたちに魅力いっぱいの「放課後子ども教室」を提供することである。しかし、その魅力は、子どもたちがつくり出さなければ生まれない。

この矛盾する課題に、本書は挑み、そして、提言している。

子どもたちが心身ともにすこやかに育つように、つまり、私たちの未来が輝やかないものになるように、本書を活用して欲しいと願っている。

提 言

子どもたちの〈人間力〉を豊かにする放課後の生活づくりにむけて ―「放課後子ども教室」の役割とあり方―

■子どもの放課後生活の大切さに目を向けましょう

いま、何もしないと子どもたちの放課後生活はゲームに呑み込まれてしまいます。

- 子どもたちは、自分で使える自由な時間を求めています。
- 自由な時間は、同じ学年の子たちが集まって、近くの公園や自分の家や友達の家でゲーム（ＤＳ、ＰＳＰなど）をする時間になっています。

■「放課後子ども教室」をもっともっと増やしましょう

「放課後子ども教室」があると、子どもたちの放課後の生活を豊かにします。

- 「放課後子ども教室」があると、ゲームで時間を過ごすのではなく、いろいろな遊びやスポーツ、手づくり・物づくり、自然とのかかわりを経験できます。
- 「放課後子ども教室」は安全・安心な居場所であるとともに、仲間といっしょに成長できる場所になっています。

■子どもたちの自主的な遊びを応援しましょう

「放課後子ども教室」は、子どもたちが自由に遊びをくりひろげる拠点です。

- 子どもは遊びが大好きです。「放課後子ども教室」では子どもが遊びの主人公です。
- 子ども自身が遊びを企画し、楽しみを創り出すことで一段と成長していきます。

■自信をもつこと、仲間を大切にすることを励ましましょう

「放課後子ども教室」は、子どもたちが人間として豊かに育っていく場です。

- 同じ学年の子どもたちだけでなく、上級生や下級生ともいっしょに遊び、新しい友だちを増やします。地域の大人の人たちとも知り合いが増えます。
- 自分に自信ができたり、友だちを大切にすることを学んでいます。

■子どもたちの姿を見つめ、育ちへの理解を深めましょう

「放課後子ども教室」は、子どもと向き合い大人も学びを深めていく場です。

- 子どもたちが抱えている困難やトラブルを受け止め、行動の裏にある願いを見つめます。
- 子ども時代を思い起こし、子どもの立場に立って考える大人の姿勢が求められています。

■子どもの世界が広がるように、地域住民の協力を呼びかけましょう

子どもたちは「放課後子ども教室」だけでなく、自由に遊べる時間と空間を求めています。

- 大人によって見守られた時間とともに、子どもだけで遊ぶ時間を求めています。
- 監視の目ではなく、関心の目をひろげて、地域の中に安心して遊べる場所を増やしていきましょう。

子どもたちの＜人間力＞を育む支援者になるために

6つのポイント

○思いに寄り添う

◇子どもには、やりたいことが一杯あります。それを押さえつけて、大人の都合になっていないか常によく考えることが大事です。あせらず・せかさず・しきらずに、「放課後子ども教室」を運営しましょう。



○遊びを積極的に見守る

◇子どもは、常に成長しています。子どもたちの成長を助ける積極的な見守りとは、口を出さず見守ることから始まり、子どもの気持ちに添って上手にお手伝いをしながら見守ることです。



○仲間づくりを励ます

◇子どもたちは、ほんの少しのお手伝いで、仲間が増えて、楽しい遊び方や新しい遊びを工夫し、創造していきます。遊びと仲間は、豊かな人間力を育みます。



○認めてどんどん褒める

◇子どもは、認められて、褒められて成長します。子どもは、もっと、もっと大人に認めて欲しい、褒めて欲しいのです。どんどん褒めてあげましょう。褒めると子どもは自信を持ち元気になります。

○遊ぶ姿を伝える

◇保護者や先生に、一人ひとりの子どもの様子を伝えましょう。学校や家庭では見られない子どものよさを伝えて、積極的に褒めてもらいましょう。保護者や学校からの理解・協力を得ると、子どもたちの安心感が広がります。



○若者・大人の協力を増やす

◇子どもは、自分たちのエネルギーを受け止めてくれるお兄さん・お姉さんが大好きです。また、様々な大人とのふれあひが必要です。地域の人たちに、「放課後子ども教室」のお手伝いをお願いしましょう。

子どもの人間力を育む 放課後子ども教室の進め方

外側の円は「提言」における6つの内容です。
「放課後子ども教室」を設置し・運営し・増やしていく
場合の＜施策づくり＞の基本視点を示しています。
内側の円は「放課後子ども教室」において、
子どもと直接関わりながら仕事を進める＜支援者＞
が配慮すべき基本視点を示したものです。

